

保育者養成校における表現関連科目のルーブリックの先行研究に関する一考察

A study of rubric's previous research of expression classes in childcare training school

永井 夕起子* 半田 結**
井上 朋子***

(令和4年7月25日受理)

要約

成績の評価基準の明示が求められるようになり、ルーブリックは授業者と学習者との間における具体的な到達目標や評価基準を共有するツールとして積極的な活用が奨励されている。

本稿は、保育者養成に関わる表現関連科目のルーブリックに関する知見を整理し、表現関連科目におけるルーブリックの可能性について考察することとした。その結果、造形、音楽、身体表現、3分野のなかで、ルーブリックの報告が確認できたのは音楽分野のみであった。ピアノや弾き歌いなどの演奏表現技術の修得、また音楽知識の理解等を中心に、ルーブリック評価が用いられ、ルーブリックによる学習効果の向上が示されている科目もあった。

今後、保育の表現に関するカリキュラムは、表現分野で分けることなく総合的表現の科目へと向かうことが予想される。表現技術や知識・理解の評価基準だけでなく、感性や体験そのものを可視化しようとすることや、多様な角度から到達目標を提示するなど、保育者養成における表現関連科目独自の評価基準の検討が求められよう。

キーワード：ルーブリック、表現関連科目、保育者養成校

keywords : Rubric, expression classes, childcare training school

I. はじめに—ルーブリックの導入¹とパフォーマンス評価

ルーブリックは、米国で開発された学修評価基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述によって達成水準が明確化されることになり、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的な評価に向くとされる²。わが国では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間」(2008)や、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2010)において、ポートフォリオやパフォーマンス評価を推奨したことに始まる。

パフォーマンス評価は、様々な知識やスキルを総合して使いこなす(活用する)ことを求めるような複雑な課題を評価する方法のことであり³、たとえば、レポート、ポートフォリオ、作品、討論への参加、プレゼンテーション、グループワーク等の、点数化が困難で定量的に表しにくいものに対して定性的に評価する際に利用される。つまり、学習者の振る舞いや実演、制作物を手掛かりに知識や技能の総合的な活用力を質的に評価する方法がパフォーマンス評価であり、その基準表がルーブリックである。

ルーブリックとは、「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するた

(*ながいゆきこ 保育科准教授 運動心理学・身体表現)

(**はんだむすび 保育科教授 美術教育学)

(***いのうえともこ 保育科教授 音楽教育・ピアノ)

めの道具」であり、学校教育等においては「成功の度合いを示す数値的な尺度と、それぞれの尺度に見られるパフォーマンスの特徴を示した記述語からなる評価基準表」を意味する⁴。

このルーブリックを活用することは、授業者と学習者との間における具体的な到達目標や評価基準を共有するツールとして有用であり、事前に評価基準を示すことで、厳正な評価・採点を保証するだけでなく、学習者が自己評価をしたり、自身で学習における課題を見つけ、改善したりする力にも結びつくものである。ここからわかるように、ルーブリックは自分の学習状況を見つめながら自己評価ができることが前提である⁵。

筆者らが担当している造形や音楽、身体表現は、ほぼすべてがパフォーマンス課題であるといっても過言ではないほど、質的な評価が求められる科目である。こうした表現関連科目では作品創作や発表といった数値化しがたい対象を評価するため、評価指標を明示することや試行錯誤の方向性のある程度示すことが重要であろうと思われる。そこで本稿では、保育者養成もしくは保育への言及を含む表現関連科目のルーブリックを概観し、今後予想される表現関連科目の動向を踏まえた課題と可能性について考察することとした。

II. 表現関連科目におけるルーブリックに関する先行研究

これまでに報告されている、保育者養成もしくは保育への言及を含む表現関連科目におけるルーブリックに関する知見について把握するため、国立情報学研究所が運営している学術論文・書誌情報のデータベース CiNii Research を利用し、「ルーブリック」「保育」に加えて(1)「造形」、(2)「音楽」、(3)「身体表現・ダンス」、の以上3種類のキーワードの組み合わせを検索し、該当した論文の内容を整理する(2022年7月1日現在)。

II-1) 造形科目におけるルーブリックの報告

「ルーブリック」「保育」「造形」の検索で該当した報告は、浅野⁶による1件であった。浅野は幼児期から小学校にかけて展開される造形活動と

して粘土活動に焦点を当て、その特徴と学習目標を整理したうえで、

低学年においては砂・土に触れることが自然に触れることを目的とした生活科の単元に繋がるという捉え方や、総合的な学習の時間、国語、理科、社会、道徳等といった他教科との関連が課題となる中で、関連する単元において育つ力を共通の指標(コモンルーブリック)として検討し、強化の特性を越えた児童の育ちを捉えることも重要な課題

と述べている。幼児期と児童期の表現領域に関する系統的指導についての検討であったため、保育者養成における指導内容への言及や具体的なルーブリックの提示はなかった。

しかしながら、低学年においては複数の教科や単元と関連した力をコモンルーブリックとして提示する必要性に言及しており、子どもの表現活動がその他の学びと相互に関係し合うことを見据えた統合的な指導を重要視している点は、幼児期の未分化な表現を、その時の子どもの発達や成長に応じた思いや気持ちの表れとして受容していく、保育者養成の表現関連科目でも共有すべき視点と言えよう。

II-2) 音楽系科目におけるルーブリック

「ルーブリック」「保育」「音楽」の検索では、5件の該当する報告があった。保育者養成校における指導法の検討であり、評価の対象科目・単元は、ピアノ教育3件⁷、表現創作(作曲)1件⁸、音楽的要素の理解1件⁹であった。

まず、ピアノ教育に関する3件の先行研究を取り上げる。3件とも、ルーブリック評価の導入背景として、学生のピアノ習熟度には個人差があること、またピアノ指導は複数の教員で担当されることが多いことから、教員間で共通認識できる評価基準がより一層必要であったことが述べられている。

永田⁷⁽¹⁾は、ルーブリックを作成するための予備調査を行い、担当教員によって指導観が異なり、

また、指導される学生の受け止め方もそれぞれ違っていたことを明らかにしている。このことから、指導者及び学習者双方の経験値や実力差に左右されないピアノ教育を行っていくためにも、保育者・教員養成機関におけるピアノ教育にふさわしい、明確な学習目標と評価基準を提示することの必要性を述べている。

そして、奥⁷⁽²⁾と廣部ら⁷⁽³⁾は、両者とも、実技発表のみならず授業への取組みを評価するためのルーブリックも提示している。奥は、授業への取組みに関する評価項目を「受講態度」「発表会・定期試験時の保育者としてのマナー」「授業時間の取組み」「定期試験時の感想シートの作成」の4項目とし、それぞれ3段階の評価基準を設けている。一方、廣部らは評価項目を「授業態度」「授業時間内における課題の理解」の2項目とし、それぞれ4～5段階の評価基準を設定している。また、実技発表に関して、奥は、複数の教員による評価を公平で厳格に行えるよう、基礎点に加点や減点を組み合わせたルーブリックを示している。ピアノと弾き歌い、それぞれのルーブリックを示し、さらにピアノについては、初級と中～上級レベルの2つのレベル別に作成されている。具体的に、ピアノ曲の評価項目は、「音高・リズムの正確な再現、弾き直しの有無などの基礎技術」「音楽的な表現面」の2項目、3段階評価とし、また前者を基礎点とし、後者を0.1点刻みの加点方式で採点するルーブリックとなっている。弾き歌いに関しては、「子どもと一緒に歌える伴奏」「歌声±」の2項目、3段階評価で設定され、「歌声±」が加点及び減点方式である。一方、廣部らの評価項目は、「ピアノ演奏」「歌唱力」「保育者としての技能」の3項目、5段階評価であるが、最初は3つのレベル別にルーブリック評価を定めていたものの、結果として評価の分散に大幅な偏りが生じたとし、全レベル共通のルーブリックを作成し直している。実技発表の項目で興味深いのは、奥の「子どもと一緒に歌える伴奏」や廣部らの「保育者としての技能」で、保育者養成校としての特徴をもった評価項目といえるだろう。

奥はルーブリックの提示が学習者の学習目標の

理解につながり、効果があったことをアンケート結果から明らかにしているが、一方で、ルーブリック票を基に集計をしても、採点者間の評価点は掛け離れずとも一致することは稀であり、基礎点と加点の方式は、型にはめられない音楽を評価するための、いわば妥協策でもあると述べている。+0.5と+0.6の違いが説明できないもの、項目の特徴に記述しきれないものが感性であり、時間芸術である音楽表現ならではのものであるとも述べ、ここでも感性を伴う表現に対する評価基準設定の難しさと、多様な角度と基準をもったルーブリックの必要性が読み取れる。

次に、北浦は、「表現創作（作曲）」の授業改善方策としてルーブリック評価を用い、授業内容の有効性を分析している。ルーブリックは、「読譜力」「演奏力」「表現力」「想像力」「楽曲構造の理解」「弾き歌い力」の6項目、4段階評価の評価基準から構成され、初回及び最終回の授業時に、学生が自己評価している。6項目のうち「表現力」について、事前評価より事後評価の方が有意に高かったとし、学生の内省（ルーブリック）から「表現創作（作曲）」の授業は「表現力」の向上に有効であったことを明らかにしている。

ピアノ演奏や表現創作（作曲）など、音楽的技術のパフォーマンス評価を目的としたルーブリックが並ぶなか、寺井は、音楽的要素の理解を目的とした実践で、音楽から感じたことを体の動きで表現することに取り組んでいる。コンセプトマップを用いて学習内容の理解度を捉えることとし、体で表現する前後のコンセプトマップを比較し、音楽理解への変化を分析している。さらに、コンセプトマップと身体表現から抽出されたキーワードを利用し、科目のルーブリックを作成している。評価項目の大分類として、「音楽基礎理論」「(曲想)表現共有概念」「音楽の身体化表現」「身体表現」の4項目を設定し、さらに、それぞれの項目に音楽を形づくる要素として細項目が3～4項目に分けられ4段階のレベルが示されている。音楽から感じられる「心から湧き出る生き生きとした深い学びを教師がその全貌を構造的に捉え」ようとする指標として作成しており、音楽的理解を知識や

演奏技術以外から評価しようとする取り組みであるといえるだろう。さらには、子どもたちの自然で未分化な表現を受容するための視点を育むことにもつながると思われる。

音楽分野では、演奏表現技術や音楽知識の理解を評価するための独自のルーブリックが作成され、ルーブリックによる学習効果の向上が示されている先行研究もあった。しかし、保育現場で求められる音・音楽に対する感性や想像力、創造力に関するルーブリック評価は十分に開発されているとはいえないことも分かった。今後、保育者としての音楽実践力とともに、音・音楽に対する感じ方や感性を伴う音楽表現力に対する評価基準も検討される必要があるだろう。

II-(3) 身体表現科目・単元におけるルーブリック

「ルーブリック」「保育」「身体表現」、また「ルーブリック」「身体表現」で検索した場合は、先に挙げた寺井の音楽理解のための身体表現のみが該当し、保育者養成、また保育に関わらず身体表現科目・単元のルーブリックの報告は確認できなかった。

関連ワードとして、「ルーブリック」「ダンス」で検索した場合には、中学校の体育で行われる単元ダンスにおけるルーブリックの改善¹⁰と、教員養成系過程の学生を対象に現代的リズムの指導法授業におけるルーブリックの有用性を検討した報告¹¹、以上2件が該当した。前者はダンスパフォーマンスの評価が目的であり、技術についての説明をより具体的にすることで、獲得すべき技能がイメージしやすいことが示されている。後者ではルーブリックを活用した群と使用しなかった群とが比較され、評価項目として設定された「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」「運動についての知識・理解」4項目のうち、「技能」において介入群で有意に得点が高かったことが報告されている。

保育者養成校における身体表現科目でのルーブリックの活用報告は確認できなかったものの、ダンスパフォーマンスの技術習得においてルーブ

リックを用いた指導が学習効果を高めることが明らかにされ、身体的表現においてもより身近で具体的な文言で評価基準を示すことが、学習者の理解や興味の向上に影響をもたらすことが理解できる。

しかしながら、保育者養成課程における表現には、技術を身につける以前の感覚・感性の発達へも視野を向けた援助・指導が求められる。今後、保育者養成課程独自の身体表現科目・単元の評価項目を検討することが望まれる。

III. 表現関連科目における評価指標とルーブリックについて

ルーブリックは、本来パフォーマンス課題の評価指標として用いられるツールである。その様な特性もあって、保育者養成校の表現関連科目において、技術評価には比較的多くの実践と検討が行われている。しかし、現時点での表現関連科目のルーブリックの最も大きな課題は、評価表そのものの数があまりにも少ないことが挙げられる。評価表の作成が難しいのは、作成の基準を一から作らなければならず、評価表は妥当性や信頼性を備えていなければならないが、学習者のパフォーマンスをどのように位置づけたいのか極めて困難であるからであろう。表現関連科目は、養成校によって分野や内容が異なるため、統一した評価表を想定することも難しい。

くわえて、『保育所保育指針』や『幼稚園教育要領』では、幼児期に見られる表現分野や技術に捉われることのない、未分化で素朴な表現を楽しむことや、身近な生活環境と十分に関わる体験の中で芽生える、感性や想像力を育むことをねらいとしており、パフォーマンスとして現れる以前の知覚・感覚を様々な遊びを通じて体験することそのものが、もとめられている。したがって、幼児期の追体験的な学習をねらいとした保育者養成校の表現関連科目では、パフォーマンス以前の内的体験に対する評価方法や、ヒトの感性における予測不可能性をも見据えた自由度の高い指標を検討するなど、表現関連科目独自の発展が必要になると思われる。

IV. まとめ

高等教育機関における学びの質の保証の観点から、パフォーマンスの評価方法として、評価項目と基準を明示するルーブリックは、学習者が到達目標を理解しやすい、また、指導者の評価をより公平で厳正なものにするツールとして、積極的な活用が奨励されている。

保育者養成のカリキュラムは、特に演習や実技科目が多く、成績においてもパフォーマンス評価の占める割合が多い。特に造形、音楽、身体表現(体育)に関する科目は、パフォーマンスが評価の中心といえる。そこで本研究では、保育者養成校における表現関連科目のルーブリックに関する知見を整理し、表現関連科目におけるルーブリックの可能性について考察することとした。

ルーブリックの提示が確認できた報告は、音楽のみであった。報告では、ピアノや弾き歌いといった表現技術の評価を中心としたルーブリックが活用されていることが明らかにされている。今後、造形や身体表現分野の科目においてもルーブリック作成や活用について報告されることが期待される。また、保育者養成課程のカリキュラムは、表現関連科目を統合させた総合的表現の科目へと移行することが予想されることから、評価指標を明確にするとともに、保育者養成校の表現科目独自の評価方法や基準の考案が必要とされるであろう。

〈脚注〉

- 1 2011年の大学設置基準改正により、卒業認定には客観性と厳格性を確保することに言及され、卒業単位が満たされる基準を明示すること、それに伴い各科目における成績評価基準もあらかじめ提示することが求められるようになった。シラバスは、成績評価対象や(試験、レポート、発表や提出物など)その割合、また、成績評価の仕方や基準と、それまでより詳細な情報が示されることになった。加えて、どの程度達成できればどの評価が与えられるのかについても事前に明示する、ルーブリックの積極的な活用が奨励されるなど、大学教育における成績評価方法に大きな転換を与えた。
- 2 文部科学省「学修評価に関する資料」2016, p.30.
- 3 西岡加名恵・田中耕治編著。「活用する力」を育てる授業と評価・中学校, 学事出版, 2009, p.9.
- 4 ダネル・スティーブンス, アントニア・レビ 佐藤浩章監訳・井上敏憲・俣野秀典訳「大学教員のためのルーブリック評価入門」玉川大学出版部, 2014, p.2.
- 5 幼児期の子どもたちに対してルーブリックを作成して評定を行った事例に、君岡らの研究がある。社会のグローバル化に対応した初等中等カリキュラムの開発として、幼稚園から高等学校のすべての子どもたちを対象に、グローバル人材に求められる資質・能力および態度の、学級全体の育ちの現状についてルーブリックを作成し評定している。評定するのは担任らであり、ルーブリックによって幼児理解に基づく話し合いが行われ、個々に応じた援助の可能性があるとしている。君岡智央・渡邊拓真・森田水加穂・伊東広大・掛志穂・杉村伸一郎・清水寿代, 幼児期にふさわしいルーブリックの活用のあり方—グローバル人材の育成に焦点を当てて—, 広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 2022, 49 : pp.1-14.
- 6 浅野卓司, 乳幼児の表現活動と図画工作を繋ぐ粘土活動の系統的な指導についての一考察, 桜花学園大学保育学部研究紀要, 2019, 19 : pp. 1-15.
- 7 (1) 永田雅彦, 保育者養成及び初等教育教員養成機関でのピアノ教育におけるルーブリックの開発に基づく指導書作り(1)指導観の違いを明らかにした予備調査結果と研究構想に関して, 児童教育研究, 2017, 26 : pp.39-45.
(2) 奥千恵子, 保育者養成校におけるピアノ演奏技法の評価(2)ルーブリックに基づく評価方法の検討教育研究実践論集, 2019, 7 : pp.131-142.
(3) 廣部朋美・馬立明美・和泉田寛・根本祥

- 美・清水裕美・石塚涼子・阿部夕佳・小林梨紗・平根ゆう子・兼氏ちな美. 保育者養成校における音楽教育のルーブリック評価作成について. 茨城女子短期大学紀要. 2018, 45 : pp.92-82.
- 8 北浦恒人. 保育者養成課程における音楽の指導法研究—ルーブリックを活用した「表現創作(作曲)」授業改善方策について—岡崎女子大学岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要. 2019, 52 : pp.47-56.
- 9 寺井郁子. 保育者・教員養成課程における身体表現による音楽的要素の理解を目指した実践的研究:ルーブリック試論. 現代教育学部紀要. 2019, 11 : pp.35-42.
- 10 杉野拓也・笹屋孝允. 生徒の自己評価を目的とした体育授業のルーブリック設計の実践. 三重大学教育学部研究紀要 自然科学・人文科学・社会科学・教育科学・教育実践. 2018, 70 : pp.447-455.
- 11 相馬秀美. 教員養成系大学における現代的なリズムのダンスの指導法授業に関する一考察. 日本女子体育連盟学術研究. 2018, 34 : pp.39-51.